

第二話

写真2に新宿四谷大木戸に向かう青梅街道、五日市街道、甲州街道の3街道を示す(白線)。街道は主に台地を縫っている。記号()数字は各点の地表の標高(m)である。写真2を前述の写真1に重ねて見ると、用水路は、おおむね道路に沿っていることが分かる。街道は出来るだけ低地を避け、用水路は台地を通るからである。玉川上水の終着点は江戸城への給水点として定められた四谷大木戸であり、標高(34m)である。ここは江戸では標高が一番高く、江戸城への給水点として最も優れた地点にあり、自由に移動させることは出来ない。五日市街道は青梅街道に合流するから、新宿四谷大木戸に達する街道は青梅街道と甲州街道になる。写真図で示されるようにY(34)が水路底の限界となる。



写真2 武蔵野台地の地勢 ()内数字は路面の測定地点の地上標高m、H(136):羽村地上標高136m、K(97):小平監視所、R(51):五日市街道、a(25):青梅街道成子坂、b(30):甲州街道野川付近、Y(34):四谷大木戸

武蔵野台地は、東南に緩く傾斜した台地ではあるが、写真2の青梅街道の地点a(25)と甲州街道のb(30)を細かく見ると、一見平地に見える台地は低地と組み合わせた複雑な地形を示すことが、拡大図写真2-a、写真2-b から分かる。

写真2-aは青梅街道中野成子坂付近(地下鉄中野坂上)の神田川を過ぎる低地であり、

水面標高は四谷大木戸よりも低い。JR 中央線は東中野あたりで渡橋する。これによって青梅街道を利用しての新宿までの用水路掘削は出来ないことになる。写真 2-b は京王線国領～仙川駅あたりでの野川・仙川の低地群を示し、最低標高は四谷大木戸よりも 4m も低いので、新宿四谷大木戸までの水路も出来ないことになる。

水路掘削には道路との高低関係が重要になる。水路規模にもよるが、四谷大木戸よりも高い標高領域でも玉川上水程度では、道路の凹凸高低差は 5 m くらいまでは、そのまま掘り進めるかもしれないが、10m 以上では容易ではないだろう。武蔵野台地には、このほか谷地、低地が幾つもある。立川残堀川、練馬石神井川、杉並善福寺川、妙正寺川、三鷹井の頭の池などである。これらの河川や低地（障害点）を避けるには、綿密に全体の地形を描いて、水路計画を立てねばならない。玉川上水はこれらの障害をすべて避けて上水ルートが設けられている。この的確な判断と掘削の技術は、一朝一夕に得られるものではない。このような地形に多摩川羽村から四谷大木戸まで水路を導くには、低地、難所を避けながら、用水路線を決めなくてはならない。これが、台地灌漑水路と従来の平坦な沖積地の違いである。現地を歩き、とくに「ひとくい川」で、これらを体得出来ればと思う。



写真 2-a 青梅街道 成子坂と神田川 a(25)
拡大図。



写真 2-b 甲州街道 野川 b(32)
拡大図。

~~~~~つづく